



「つながりの中で育つ子どもたち」

校長 山中 卓

新年度が始まってから、まもなく一か月が過ぎようとしています。

子どもたちは、新しい学年や学級での生活に少しずつ慣れ、それぞれの場面で一生懸命に取り組む姿を見せてくれています。

一年生を迎える会では、上級生が一年生のために温かい言葉や出し物を準備し、学校の一員として迎え入れようとする気持ちが伝わってきました。心とむとも素敵な時間となりました。

また、本校で大切にしている「異学年交流」では、ペア学年での活動を通して、思いやりや助け合いの大切さを学ぶ姿が見られました。こうした関わりの中で、子どもたちは人とのつながりを感じながら成長しています。

授業参観および学級・学年懇談会には、多くの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。授業参観では、子どもたちが真剣に学習に取り組む姿や、友達と関わりながら考える様子をご覧いただけたことと思います。懇談会では、学校や学年・学級の方針について共通理解を深める貴重な機会となりました。あらためて、家庭と学校が連携することの大切さを感じています。

一方で、新しい環境の中で気を張って過ごしてきた分、心や体に疲れがたまりやすい時期でもあります。ゴールデンウィークは、少し立ち止まり、自分自身の心や体の様子に目を向けるよい機会です。無理をしすぎず、しっかりと休み、また元気に学校生活に戻ってきてほしいと思います。

さて、4月の始めに、子どもたちに「あいさつを大切にしてほしい」と伝えました。校門や校内で、元気にあいさつをしてくれる子どもたちの姿が少しずつ増えており、大変うれしく感じています。あいさつは、人と人をつなぐ大切な第一歩です。これからも、気持ちのよいあいさつがあふれる学校であってほしいと願っています。

5月3日は「憲法記念日」です。憲法は、すべての人が大切にされ、安心して生活できる社会をつくるための基本となる約束です。学校生活においても、一人ひとりが大切にされ、安心して過ごせる環境づくりはとても重要です。あいさつを交わすこと、友達の話に耳を傾けること、困っている人に手を差し伸べること等、そうした一つひとつの行動が、安心できる学校をつくっていきます。

先日、人権研修として大阪市立大空小学校元校長の木村泰子さんのお話をうかがう機会がありました。木村さんは、「学校は、子どもたちが安心して過ごし、失敗を恐れずに挑戦できる基盤であることが大切」と話されていました。講演では、一人ひとりの存在がそのまま大切にされていると感じられること、安心できる人とのつながりの中で過ごせること、そして自分で考え、決めることが尊重されること、失敗もまた、大切な学びの一つであること、学校の雰囲気は、誰かがつくるものではなく、私たち一人ひとりの言葉や行動によって生まれるもの等、大切なメッセージをいただきました。

あらためて、自分自身が安心と挑戦を支える学校の「空気」をつくっていきたいと感じました。

そして、5月5日は「こどもの日」です。子どもたち一人ひとりが健やかに成長し、幸せに過ごせることを願う日です。子どもたちは、家庭や学校、地域の多くの方々から支えられながら日々成長しています。そうした支えがあるからこそ、安心して学び、さまざまなことに挑戦することができます。

今後も、子どもたちが安心して学校生活を送り、自分らしく成長していくことができるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。

保護者・地域の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

子どもたちの「今」と「未来」の幸せにつながる学校づくりを、これからも大切にしていまいります。